

さんがく

# 算額研究者来訪。デジタルアーカイブに掲載！



算額(さんがく):江戸時代に神社や寺に奉納した数学の絵馬(えま)。

9月26日 全国の算額を研究している早稲田大学高等研究所講師のカライスル・アントニアさん(女性)と長野県和算研究会の田中秀明さんらが来訪。朽飯八幡神社の3つの算額を見学しました。



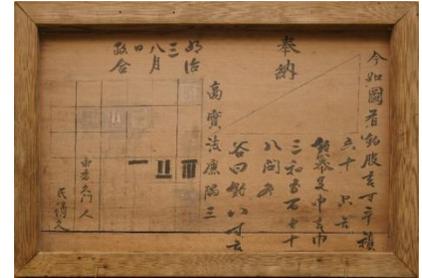
江尻秀重の算額 天保4年(1833年)

【問題】 虎が1周するのに10,517日かかる赤円の道と獅子が1周するのに7,371日かかる黒円の道がある。虎が赤道を獅子が黒道を休まずに行くと、虎と獅子が再会するのは何日目か？  
(答え:5,963,139日。10,517と7,371の最小公倍数を求める問題)



市橋靄松負澄の算額 嘉永2年(1849年)

図のような球形の盃(さかずき)の体積を求める問題が描かれている。



民清久の算額 明治3年(1870年)

直角三角形の面積を示して各辺の長さを求める問題が記されている。

算額は、全国で約1,000面が現存していると言われています。福井県内には23面が現存しており、そのうちの3面が朽飯八幡神社に残されており大変貴重なものです。



アントニアさんは算額アーカイブプロジェクトを進めています。このプロジェクトは日本に現存するすべての算額をオンライン上で公開することを目指しています。高解像度の画像、日本語と英語のデータを作成し、世界中の研究者が算額に関する情報にアクセスできるようになります。朽飯八幡神社の算額が掲載されることはとても光栄なことだと思います。

11/23(日)に清掃と雪囲いを行います。ご協力をお願いします。